

# 環境経営レポート

第44期：2024.10～2025.9



発行 2025年10月24日 No.18

# SANKO

三幸エンジニアリング株式会社

## 目次

1, 取組の対象組織・活動の明確化 .....	2
2, 代表者による経営における課題とチャンスの明確化.....	4
3, 環境経営方針 .....	5
4, 環境への負荷と環境への取組状況の把握及び評価.....	7
5, 環境関連法規などの取りまとめ .....	9
6, 環境経営目標及び環境経営の策定 .....	10
7, 実施体制の構築 .....	12
8, 教育・訓練の実施 .....	13
9, 環境コミュニケーションの実施 .....	13
10, 実施及び運用 .....	13
11, 環境上の緊急事態への準備及び対応 .....	13
12, 文書類の作成・管理 .....	13
13, 取組状況の確認・評価、並びに問題の是正及び予防処置.....	14
14, 代表者による全体の評価と見直し・指示 .....	18

## 1. 取組の対象組織・活動の明確化

---

社名：三幸エンジニアリング株式会社

創業：昭和 56 年 2 月 1 日

役員：代表取締役 青木兼弘 取締役 鳥井文夫 取締役 黒井正春

資本金：授權資本 2400 万円 払込資本 1000 万円

所在地：本社 〒421-0112 静岡県静岡市駿河区東新田 4-7-24

環境担当・外部よりの苦情要望受付窓口

環境管理責任者 黒山 幸浩（クロヤマ ユキヒロ）

TEL:054-257-2828 FAX:054-258-7296

URL：<https://sankoeng.co.jp/>

事業内容：電気機械器具製造業、電子機器設計業務(音響製品、P 店用機器、ゲーム機、精算機、券売機、省力化機器等)

決算月：9 月 第 44 期実績 152,081 千円 (2024 年 10 月～2025 年 9 月)

従業員数：26 名

建物：第一工場 株式会社小糸製作所様・矢崎計器株式会社様 生産ライン

第二工場 設計開発室 株式会社エルコム様 自社製品生産ライン

事務所 総務、経理部門

延床面積 9 4 0 m<sup>2</sup>

取引銀行：静岡銀行用宗支店 しずおか焼津信用金庫東新田支店 静岡信用金庫東新田支店

関連会社：三幸無線株式会社

主要得意先：株式会社小糸製作所様 矢崎計器株式会社様 株式会社エルコム様

対象期間：2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日

発行日：2025 年 10 月 28 日

対象組織：三幸エンジニアリング株式会社 本社

対象範囲：電気機械器具製造業、電子機器設計業務

弊社オリジナル商品

小型両替機 SFK-1170 シリーズ



Compact/Cute/Carry/Cube/Convenient

5つのCをコンセプトに開発した製品です。

両替だけに機能を絞って筐体を小さくし、

部品点数をなるべく減らし、

持ち運びが可能なように軽量化し、

鉛フリー半田を使用し、

待機電力は5W以下、最大電力50W以下（50Hz/60Hz）

三幸エンジニアリング株式会社は、

環境に優しい製品を設計開発し、製作しています。

## 2. 代表者による経営における課題とチャンスの明確化

### 内部・外部の課題

<p>外部</p>	<p>①材料費、エネルギー費の高騰（原価高騰）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発注計画の精度を上げて、原価を下げる</li> </ul> <p>②顧客要求がより複雑になり、設計開始から製造までの道のりが長い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計時点でユニット化に配慮し、試作回数を減らす努力をする</li> </ul>
<p>内部</p>	<p>①社員の環境対策への意識不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な取り組みとして定着しにくい</li> <li>・教育や研修への機会が限られている</li> </ul> <p>②環境対策に割ける人員や予算の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員不足に対し、安易に増員が困難</li> <li>・大きな予算を確保することは困難</li> </ul> <p>③業務プロセスとの整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客要求に対するプロセス変更への複雑さ</li> </ul>

### 内部・外部のチャンス

<p>外部</p>	<p>①EA21 推進により、企業価値を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自社製品の信頼性向上</li> </ul> <p>②環境に配慮した製品生産</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計当初から環境に配慮したものづくり</li> </ul>
<p>内部</p>	<p>①省エネ・省資源の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費エネルギーを減少させてコスト削減を見込む</li> </ul> <p>②品質管理体制を整えて歩留まり向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物削減及び利益率向上</li> </ul>

### 3. 環境経営方針の策定

---

#### 【基本理念】

三幸エンジニアリング株式会社は、電子機器・車載用電子基板等の設計製造を通し、資源の有限性を認識し、環境負荷の低減に努めます。日々、一人々々による環境への心配りに努め、環境保全に注力します。世代交代を図り新規顧客開拓努めながら社業発展を目標に、お客様・従業員・社会全体の三つの幸せを求めます。

#### 【行動指針】

当社は、社員一人々々の参加で、以下に掲げる環境負荷低減活動に取り組み『人と自然との調和』を実現するための環境経営をすすめます。

- 1 『二酸化炭素排出量削減』のため『電力、化石燃料』等の省エネルギー化対策に取り組み、地球温暖化防止に努めます。
- 2 『産業廃棄物削減』のため省資源・リサイクル化を推進します。
- 3 『環境関連法規等の遵守』に取り組み、環境保全に努めます。
- 4 グリーン購入、環境負荷の少ない自社製品の開発を推進します。
- 5 化学物質の有害性を認識し、使用量の把握・削減に取り組みます。
- 6 得意先不良ゼロを目指し工程内のムダを無くします。
- 7 環境経営の継続的改善を実施する。

以上の環境経営方針は全社員に周知すると共に、環境経営レポートとして公開します。

制定年月日 2007年5月1日

改定年月日 2018年6月1日

三幸エンジニアリング株式会社

代表取締役 青木 兼弘

## 4. 環境への負荷と環境への取り組み状況の把握及び評価

### 4-1 44期の環境への負荷（期間：2024年10月1日～2025年9月30日）

- ・エネルギー使用量（CO2排出係数：環境省・経済産業省公表 令和5年度実績）

項目		単位	44期実績
二酸化炭素排出量		kg-CO2	35,570
エネルギー	電力	kWh	64,073
	ガソリン	L	952.9
	プロパンガス（LPG）	kg	19.25
水使用量（推定値）		m <sup>3</sup>	72

<備考> CO2排出係数は、電気事業者別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）令和5年度実績を使用した。

鈴与電力（株）調整後の排出係数：0.584kg-CO2/kWh

キヤノンマーケティングジャパン（株）調整後の排出係数：0.341 kg-CO2/kWh

- ・一般廃棄物と産業廃棄物の排出量

項目	名称	単位	44期実績
一般廃棄物	可燃ごみ	kg	359.1
	古紙	kg	1,100.0
産業廃棄物	IPA（イソプロピルアルコール）	kg	480.4
	共晶カス	kg	112.5
	リードピン	kg	177.0
	廃プラ	kg	300.0
	廃プラ（軟質系）	kg	70.0
	金属屑・雑品	kg	490.0



## 第44期 三幸エンジニアリング株式会社

### 環境経営目標

#### 1, 二酸化炭素排出量削減目標

中期目標 第43期比で第46期は3%以上削減

短期目標 第44期は第43期比1%以上削減(僅かでも削減しよう)

#### 2, 廃棄物削減目標

中期目標 第43期比で第46期は3%以上削減

短期目標 第44期は第43期比1%以上削減(僅かでも削減しよう)

#### 3, 総排水量削減目標

節水に努めることとし、特別に排水流節減目標を掲げないこととする  
地下水＝公共水という意識を持ち、節水に努める

#### 4, 化学物質使用量削減目標

化学物質使用量を把握し、化学物質の有害性を認識しよう

#### 5, グリーン購入の目標

必要なグリーン購入の対象製品を探し選定し、少しでも購入しよう

#### 6, 自社製品の環境配慮に関する目標

リサイクルしやすい製品設計を目指そう

有害物質の含有量の少ない製品設計を目指そう

作成2024年10月25日

## 4-3 44期の取組み状況の把握と評価

### ・44期取り組み内容に対する評価表

今年度の評価が○となっていない項目は、なぜできないのかを解析し次年度の重点目標として扱うこととする。

効果の薄い項目について次年度は削除して、来期に新たな活動項目を加えることとする。

44期						
環境活動項目			責任者	評価	次年度への取組	
二酸化炭素の削減	エコ・ドライブ	1	unnecessary アイドリングの禁止	竹村	○	継続実施
		2	不要な荷物を積まない(1回/月チェックする)		○	継続実施
		3	急発進・急加速の禁止		○	継続実施
		4	効率的な配送ルートを選定		○	継続実施
		5	運転日報の記載・燃費確認(走行キロ数、給油量等)		○	継続実施
		6	同方向は相乗りの励行		○	次年度削除
		7	低冷房運転の励行		○	次年度削除
	空調等	1	エアコンの設定温度を夏季26以上℃、冬季20℃以下に設定	黒山	△	継続実施
		2	クールビズ、ウォームビズの実施		○	継続実施
		3	空調フィルターの定期清掃(夏前、冬前 2回/年)		△	次年度重点
		4	ブラインドを利用し外部の温度を可能な限り遮断する		○	継続実施
	ユーティリティ	1	天井照明の間引き	部門長	○	継続実施
		2	製造工程の見直し		△	継続実施
		3	コンプレッサーのエア漏れチェック		△	次年度重点
		4	未使用設備の電源OFF(製造設備・OA機器・他)		△	継続実施
		5	段取り時間の短縮		○	継続実施
		6	不良品の削減(不良件数目標0件)		△	次年度重点
		7	5S活動の実施		△	継続実施
	廃棄物の削減	1	コピー用紙の両面使用	部門長	○	継続実施
		2	通函の延命化の検討		△	継続実施
		3	廃プラスチックのリサイクル率向上		○	継続実施
水使用量の削減	1	洗車時の節水	黒山	○	次年度削除	
	2	水もれ点検の実施		△	継続実施	
化学物質	1	使用化学物質のSDS入手	工場長	○	継続実施	
	2	購入量・使用量の把握		○	継続実施	
	3	使用量削減の検討		△	継続実施	
	4	購入・保管・使用・廃棄段階の適正管理方法の検討		○	継続実施	
環境に配慮した製品づくり	1	環境に配慮した製品作りのテーマ検討	部門長	△	次年度重点	
	2	環境経営目標(数値目標)の設定検討		○	継続実施	
環境経営の継続的改善 (顧客満足度の向上)	1	顧客との環境コミュニケーション推進します	黒山	○	継続実施	
	2	顧客満足度の向上等を図ります		○	継続実施	
	3	セミナー等に積極的に参加し環境経営の知識を高める		○	継続実施	

## 5. 環境関連法規などの取りまとめ

2025年10月19日

評価確認者 環境管理責任者 黒山 幸浩

法律・条例の名称	遵守すべき内容 (環境関連要求事項)	担当部署	法令等の適用を受ける設備、行為	遵守評価記録 評価：○、△、×
廃棄物処理法	適正処理、再生利用等減量努力	事業所全体	委託契約書 (許可証コピー) 保管施設 (廃プラスチック類、他)	○
	産業廃棄物処理業者と委託契約	経営者		
	産業廃棄物保管場所の適正保管	第一工場		
	産業廃棄物管理表の交付と管理	管理責任者		
	マニフィスト起票・保管(5年)	管理責任者		
静岡市産業廃棄物の適正な処理に関する条例	産廃業者の実地確認など	管理責任者		○
静岡市廃棄物の処理及び減量に関する条例	適正処理、再生利用等減量努力 指定袋使用による手数料の支払	事業所全体		○
フロン排出抑制法	エアコンの簡易点検 廃棄時フロン回収業者に引き渡し	事務所及び 管理責任者	エアコン・室外機15台 業務用エアコン(委託確認書、引き取り証明書)	○
自動車リサイクル法	リサイクル料金の支払、登録業者への廃車の引渡し	事務所	登録自動車(同上)	○
家電リサイクル法	リサイクル料金の支払	事業所全体	家電4品(同上)	○
資源有効利用促進法	パソコンリサイクル促進	事業所全体	パソコン(同上)	○
労働安全衛生法	アルコール洗浄室の換気 半田槽換気 第二種圧力容器の自主点検	第一工場	噴流槽、静止槽 手半田槽 防湿剤塗布 アルコール洗浄室 空気圧縮機	○
環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。				
また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。				
補則：毎年10月に遵守すべき法規を見直し、遵守評価を実施するものとする。				

## 6. 環境経営目標及び環境経営計画の策定

### 6-1 環境経営目標



認証番号 0002176

## 第45期 三幸エンジニアリング株式会社

### 環境経営目標

#### 1, 二酸化炭素排出量削減目標

中期目標 第43期比で第46期は3%以上削減

短期目標 第45期は第43期比2%以上削減(僅かでも削減しよう)

#### 2, 廃棄物削減目標

中期目標 第43期比で第46期は3%以上削減

短期目標 第45期は第43期比2%以上削減(僅かでも削減しよう)

#### 3, 総排水量削減目標

節水に努めることとし、特別に排水流節減目標を掲げないこととする  
地下水=公共水という意識を持ち、節水に努める

#### 4, 化学物質使用量削減目標

化学物質使用量を把握し、化学物質の有害性を認識しよう

#### 5, グリーン購入の目標

必要なグリーン購入の対象製品を探し選定し、少しでも購入しよう

#### 6, 自社製品の環境配慮に関する目標

リサイクルしやすい製品設計を目指そう

有害物質の含有量の少ない製品設計を目指そう

作成2025年10月17日

## 6-2 環境経営計画の策定

### ・45期活動計画

45期計画 太字は重点目標			環境活動項目	責任者
二酸化炭素の削減	エコ・ドライブ	1	不必要なアイドリングの禁止	竹村
		2	不要な荷物を積まない(1回/月チェックする)	
		3	急発進・急加速の禁止	
		4	効率的な配送ルートを選定	
		5	運転日報の記載・燃費確認(走行キロ数、給油量等)	
	空調等	1	エアコンの設定温度を夏季26以上℃、冬季20℃以下に設定	黒山
		2	クールビズ、ウォームビズの実施	
		3	<b>空調フィルターの定期清掃(夏前、冬前 2回/年)</b>	
		4	ブラインドを利用し外部の温度を可能な限り遮断する	
	ユーティリティ	1	天井照明の間引き	部門長
		2	製造工程の見直し	
		3	<b>コンプレッサのエア漏れチェック(測定器によるエア漏れの測定)</b>	
		4	未使用設備の電源OFF(製造設備・OA機器・他)	
5		段取り時間の短縮		
6		<b>不良品の削減(不良件数目標0件)</b>		
7		5S活動の実施		
8		半田槽の温度を常時測定し、暖気運転の時間を短縮し製品品質向上を図る		
廃棄物の削減	1	コピー用紙の両面使用	部門長	
	2	通函の延命化の検討		
	3	廃プラスチックのリサイクル率向上		
水使用量の削減	1	蛇口をしっかりと締めて、揚水ポンプの節電に心掛ける	黒山	
	2	水もれ点検の実施		
化学物質	1	使用化学物質のSDS入手	工場長	
	2	購入量・使用量の把握		
	3	使用量削減の検討		
	4	購入・保管・使用・廃棄段階の適正管理方法の検討		
環境に配慮した製品づくり	1	<b>環境に配慮した製品作りのテーマ検討(新製品設計時)</b>	部門長	
	2	環境経営目標(数値目標)の設定検討		
環境経営の継続的改善(顧客満足度の向上)	1	顧客との環境コミュニケーション推進します	黒山	
	2	顧客満足度の向上等を図ります		
	3	セミナー等に積極的に参加し環境経営の知識を高める		

### ・中期数値計画目標

項目	単位	基準期間	運用期間		運用期間		運用期間		
		43期	44期		45期		46期		
		基準値	目標削減率	目標値	目標削減率	目標値	目標削減率	目標値	
二酸化炭素排出量	kg-CO2	33,952	-1%	33,612	-2%	33,273	-3%	32,933	
エネルギー	電力	kWh	64,720	-1%	64,073	-2%	63,426	-3%	62,778
	ガソリン	L	962.5	-1%	952.9	-2%	943.3	-3%	933.6
	プロパンガス(LPG)	kg	20,079 ※1	---	---	※1	---	※1	---
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	1,384 ※2	---	---	※2	---	※2	---
	一般廃棄物	kg	1,650.7	-1%	1,634.2	-2%	1,617.7	-3%	1,601.2
水使用量	---	※3	---	---	---	---	---	---	
環境に配慮した製品づくり	件	1件	---	1件以上	---	1件以上	---	1件以上	

※1：お茶用のお湯だけなので管理はしない ※2：定期的な廃棄をしないため目標設定しない  
 ※3：井戸水を使用し、トイレと飲用だけなので目標管理しない

<備考> CO2 排出係数は、電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)令和4年度実績を使用した。

鈴与電力(株)調整後の排出係数：0.509kg-CO2/kWh

キヤノンマーケティングジャパン(株)調整後の排出係数：0.457kg-CO2/kWh

## 7. 実施体制の構築



### 【関係者の権限と役割】

#### 代表取締役

- ① 環境経営全般に関する責任と権限
- ② 環境管理責任者の任命
- ③ 環境経営システムの運用に必要な経営資源の準備
- ④ 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする
- ⑤ 環境経営方針の制定及び改定
- ⑥ 環境経営システム全体の評価と見直し
- ⑦ 効率的な実施体制の構築と全従業員への周知

#### 環境管理責任者

- ① 環境経営目標及び環境経営計画の作成
- ② 環境経営システム全般の運用と管理
- ③ 代表取締役への取組状況の報告
- ④ 環境経営レポートの作成

#### 第一工場工場長、設計開発室室長、事務所

- ① 部門の環境経営計画の実施
- ② 部門データの集計
- ③ 部門の問題点把握と是正処置の実施
- ④ 部門の取組状況の環境管理責任者への報告
- ⑤ 部門の従業員教育

#### その他の従業員

- ① 自分の役割を守り、エコアクション 21 の活動を推進する

## 8. 教育・訓練の実施

### 教育訓練記録

	種別	内容	実施日	講師	対象者	有効性
1	社内教育	環境会議	毎月	環境管理責任者	社員全員	○
2	社外教育	静岡県企業脱炭素推進フォーラム	2月10日	静岡県産業振興会	管理責任者	○
3	社外教育	SDGs×ESGウェビナー	7月11日	静岡県環境資源協会	管理責任者	○
4	訓練	地震を想定した避難訓練	10月1日	-----	社員全員	○

- ・毎月、環境会議を実施した。
- ・外部教育のセミナー内容は、環境会議で水平展開を実施した。

## 9. 環境コミュニケーションの実施

### 9-1 組織内のコミュニケーション

- ・毎月行う環境会議にて、電力使用量、部署毎のコピー枚数、廃棄物の種別と数量などの報告を実施した。予防処置への対応方法も会議で検討した。
- ・環境経営目標の読み合わせを行い、目標達成に向けた意識を向上させた。

### 9-2 外部からの環境に関する苦情の受付

- ・44期は外部からの苦情は0件でした。

### 9-3 環境経営レポートは年次で作成し、公表する。

- ・環境経営レポートはホームページに掲載し、公表します。

## 10. 実施及び運用

10-1 産業廃棄物運搬に関する要領書が無かったため、新たに「産業廃棄物運搬要領書」を作成し、産業廃棄物運搬に関するルールを徹底させる。

10-2 その他、必要に応じて要領書、手順書を作成する。

## 11. 環境上の緊急事態への準備と対応

- ・2025年10月1日 大地震に伴う火災を想定して避難訓練を実施  
別途、「初動対応訓練計画書」、「避難訓練実施報告書」を作成し、問題点の洗い出しを行った。

## 12. 文書類の作成・管理

- ・要求事項に求められる文書類は全てサーバーへ保管し、随時見直しや改定を実施している。
- ・サーバーはクラウド上にバックアップされているため、万一の際にも保護される。

### 13. 取組状況の確認・評価、並びに問題の是正及び予防

#### 13-1 44期実績 (CO2 排出係数：環境省・経済産業省公表 令和5年度実績)

項目	単位	基準期間		運用期間				
		43期		44期				
		基準値	目標削減率	目標値	実績値	実績削減率	評価	
二酸化炭素排出量	kg-CO2	33,952	-1%	33,612	35,570	4.8%	×	
エネルギー	電力	kWh	64,720	-1%	64,073	67,951	5.0%	×
	ガソリン	L	962.5	-1%	952.9	918.3	-4.6%	○
	プロパンガス (LPG)	kg	20.08 ※1	---	---	19.25	---	---
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	1.384 ※2	---	---	1.559	---	---
	一般廃棄物	kg	1,650.7	-1%	1,634.2	1,459.1	-11.6%	○
水使用量	---	---	---	---	---	---	---	
環境に配慮した製品づくり	件	1件	---	1件以上	1件	---	---	

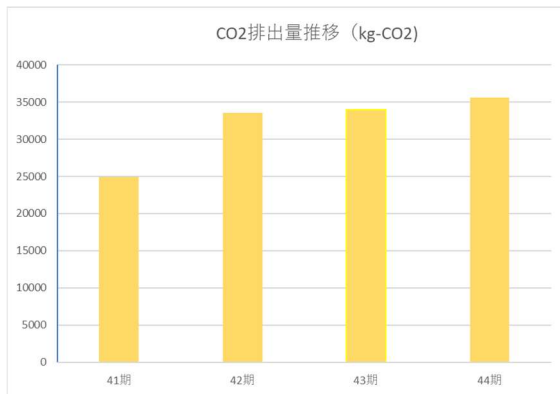
※1：お茶用のお湯だけなので管理はしない ※2：定期的な廃棄をしないため目標設定しない  
 ※3：井戸水を使用し、トイレと飲用だけなので目標管理しない

<備考> CO2 排出係数は、電気事業者別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）令和5年度実績を使用した。

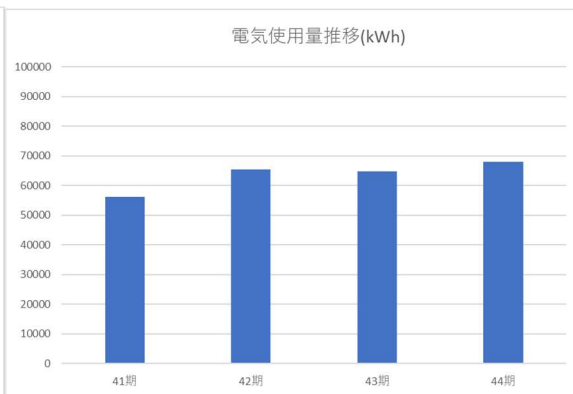
鈴与電力（株）調整後の排出係数：0.584kg-CO2/kWh

キヤノンマーケティングジャパン（株）調整後の排出係数：0.341 kg-CO2/kWh

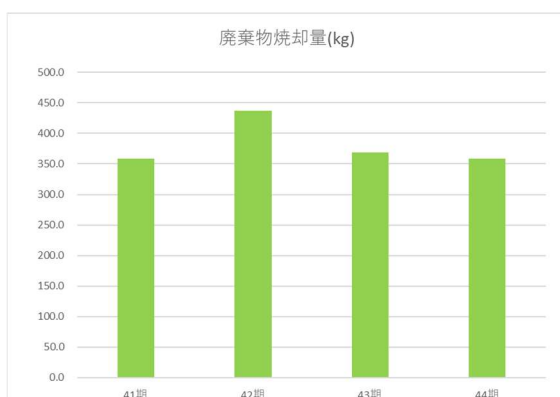
過去4年間のCO2 排出量



過去4年間の電力使用量



焼却廃棄物排出量



## 13-2 44期の評価

### ・二酸化炭素排出排出量

結果は43期に対して+4.8%となり、目標は達成することができなかった。

当社はCO2排出量のほとんどが電力を占めている。電力使用量を削減しない限り、CO2排出量の削減は見込めない。

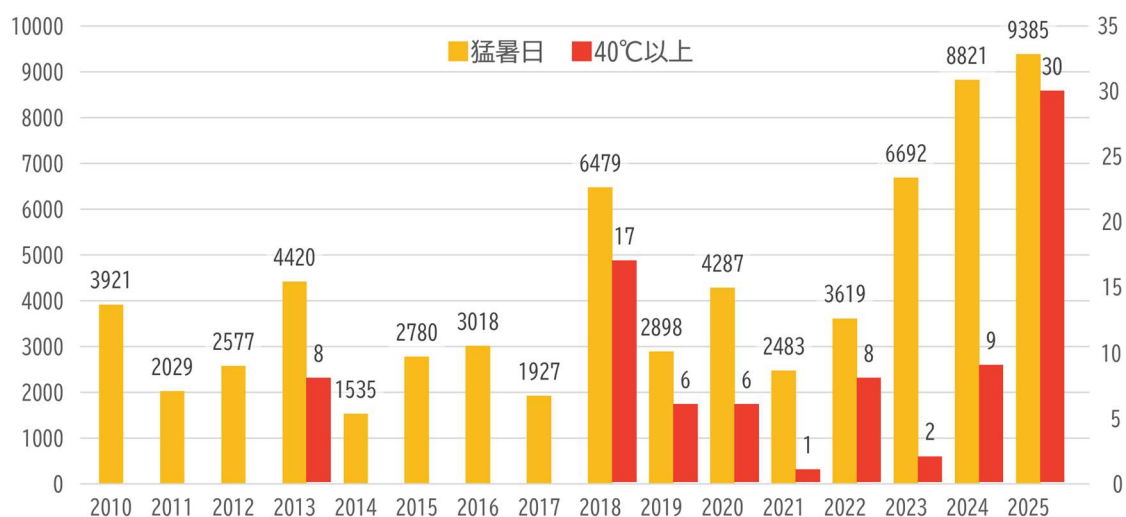
### ・電力使用量

対昨年比で+5%という結果になってしまった。

昨年、冬場の電力使用量を抑えることができれば目標達成可能と推測していたが、想定外の事象が発生して電力使用量を抑えることができなかった。この原因と対策は、別途「予防処置」を行った。

その他に夏場のエアコン使用量が増えてしまったことも一因であるが、健康を害することはできないので仕方なしと判断した。

2010年以降の夏の猛暑日と日最高気温40℃以上の延べ地点数



気象庁「令和7年夏の記録的な高温と7月の少雨の特徴とその要因及び8月前半の大雨をもたらした大規模な大気の流れの特徴」より日本気象協会にて作成

### ・一般産業廃棄物

目標に対して、-11.6%という数値が得られた。

梱包資材（主に段ボール）の再利用をしたことが、数値に出てきたと思われる。

引き続き、梱包資材の再利用を推進していきたい。

## 13-3 44期予防処置について

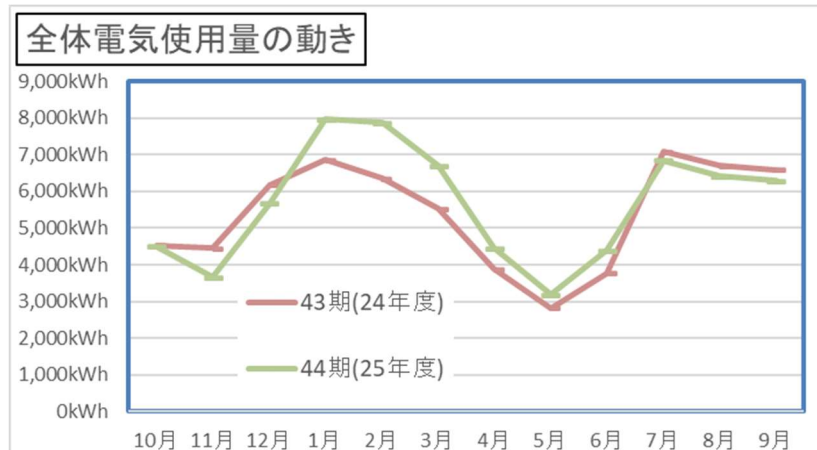
### ①冬季の節電のお願い

当社では電力使用量を抑えることができれば、CO2 排出量を抑えることが可能となる。

43期は、冬場の電力使用量が増加して電力使用量が目標達成できなかったため、44期は特に冬場の電力使用量を抑えてもらうようお願いをしていた。

結果、11月12月共に昨年の使用量を下回ることができた。

お願いの結果がグラフに現れたことに予防処置は有効と判断した。



### ②1月以降の異常な電力使用量の調査

冬場の電力使用量が下がり①の予防処置は有効と判断したが、1月以降に異常なほどの電力使用量が確認された。寒さが厳しかったため、エアコンの使用量が増加したことは分かった。

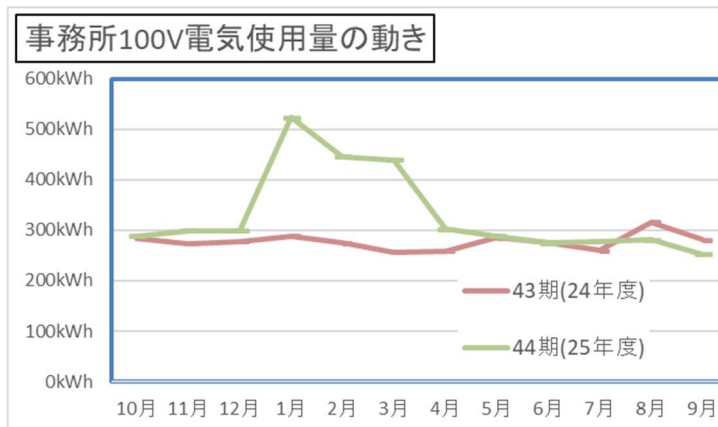
しかし、事務所の100V系電力使用量が昨年の2倍近くまで増加していることが分かった。

原因はトレンドグラフから判断し、事務所に設置された無停電電源装置によるものと判断し、予防処置の検討を行った。

通常、無停電電源装置は充電が終わると使用電力が下がるが、この機器は「異常」と判断して3月中旬に「修理を行うまで通電禁止措置」を取った。

4月以降は通常状態に戻ったため、予防処置は有効と判断した。

無停電電源装置 (BLUETTI 製 EP500Pro) は修理を終えたが、未だ通電はされていない。



## 13-4 その他の活動

- ・ 第一工場の水道蛇口のコマを全て交換

第一工場の揚水ポンプが常時回っているため調査をした結果、蛇口から常時少量の水が出ていることが分かった。そこで、第一工場の蛇口のコマを全て交換した。

節水コマに交換しようと考えたが、市水と異なり水圧が低く出水量が多くないため断念した。



- ・ 産業廃棄物運搬のルールを決めて、「産業廃棄物運搬要領書」を発行

産業廃棄物運搬時のルールがはっきりと決められていなかったため、要領書を発行し厳格にルールを決め、適正な方法で処理業者まで運搬するようにした。



## 14. 代表者による全体の評価と見直し・指示

### 14-1 経営者による全体評価

44期の電力使用量及びCO2排出量は、事業環境や気象の影響にて残念ながら前年を上回る結果となりました。環境負荷低減を課題として掲げる当社として、この結果を真摯に受け止めています。

今回の反省を踏まえ、業務プロセスの改善、グリーン電気の活用検討など、環境負荷削減に向けた取り組みをより一層進めていきます。

今後も持続可能な事業運営を目指し、改善に努めていきます。

### 14-2 見直し関連

見直し 関連 情報	項目		確認	：（必要に応じて評価・コメント記載）
	1	エコアクション21文書	<input checked="" type="checkbox"/>	記録・文書として作成しました
	2	環境経営目標及び目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/>	短期目標は一部だけ達成しました
	3	環境経営計画及び取り組み実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	継続して取り組みます
	4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/>	記録に記載いたしました
	5	外部コミュニケーション・対応記録	<input checked="" type="checkbox"/>	特に問題ありませんでした。
	6	問題点の是正・予防措置の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	是正処置は有効でした。
	7	取引先、業界、関係行政機関、その他の外部動向	<input checked="" type="checkbox"/>	継続して取り組みます。
	8	その他（ ）	<input type="checkbox"/>	

見直し項目		変更の 必要性	「有」の場合の指示事項等
1	環境経営方針	無し	
2	環境経営目標	無し	
3	環境経営計画	有り	「蛇口をしっかりと締めること」を追記
4	実施体制	無し	
5	その他のシステム要素	有り	廃棄物運搬に関するルールを制定
6	その他（外部への対応）	無し	

三幸エンジニアリング株式会社

代表取締役 青木 兼弘